

NPO 法人ワンダーポケット2017年度事業報告

【特定非営利活動に係る事業】

1. 病気の子どもたちが良質な医療を受けるための環境整備に関する事業

(事業費 118,655 円)

● 病院での出張イベントの企画・開催

(1) 『クリスマスイベント』の開催

開催日時：2017年12月21日(木)、22日(金)

開催場所：東北大学病院、仙台市立病院、仙台赤十字病院及び国立病院機構仙台医療センター

対象者：入院中の0歳～小学生の子どもたち

対象者数：仙台市立病院 28名

東北大学病院 30名

仙台赤十字病院 56名

国立病院機構仙台医療センター 30名

概要：仙台市立病院と東北大学病院、国立病院機構仙台医療センターにおいては、各病院のスタッフがサンタ隊として子どもたちにプレゼントを配布して下さることとなり、当法人(以下「ワンポケ」という。)ではプレゼントを作成・ラッピングし、イベント当日に病院スタッフへお届けするところまでを担当した。

仙台赤十字病院においては、ワンポケのスタッフでもある病院スタッフがサンタクロースやツリー、トナカイの扮装をし、NICU と小児科病棟へ入院中の子どもたちへプレゼントを手渡した。また、小児科病棟では、病棟主催のクリスマス会に合流し、影絵の人形劇や影絵を使ったクイズコーナー、ダンスなどの企画やプレゼント配布を担当した。終了後、会には来られなかった子どもたちの病室を訪問し、ベッドサイドでプレゼントを手渡した。

配布したプレゼントはキャンディ・レイ(中身はビーズのアクセサリやミニリース、折り紙製の独楽、マグネット、昆虫のフィギュア、風船など)、毛糸とフェルトで作った指人形、厚紙とフェルト製の写真立てなどで、その多くは例年同様ボランティアやスタッフの手で作られたものである。これらに加え、株式会社ジーシー様よりご寄付いただいた歯ブラシや、寄付金で購入した文房具類もあわせてラッピングし、子どもたちの年齢に応じたプレゼントを配布した。

プレゼントの作成に協力して下さったボランティアは約20名以上と、多くの方々の協力のもとイベントを成功させることができた。

2. 病気の子どもたちとその家族を支援するための事業

(事業費 981,362 円)

● 宿泊施設「ラッコハウス」の管理運営

運営期間：2017年4月1日から2018年3月31日まで

利用日数：11泊(19日)

利用者数：延べ27人(延べ8家族)

概要：昨年に引き続き利用数は減少傾向にある。東北大学病院では産科・NICU・小児科の各病棟、また、外来では小児科・歯科・形成外科にパンフレットを配備しラッコハウスについて随時紹介して下さっているが、昨年の利用者数減少の要因であった母親同士の情報交換など繋がりを求める

方が多くマクドナルドハウスの利用者が増加していることや、これまで継続的に利用されていたご家族の利用がなくなったのは病児の状態が安定したことが今年度も影響していると考えられる。利用者の方からは、お子さんの病状の急な変化や病院の混雑状況等により、直前に利用日やチェックイン時間の変更などの連絡が入ることもあったが、当ハウス近くに住むハウスマネージャーのご協力により、臨機応変な対応をすることができた。

●病児の兄弟姉妹の交流会「きょうだいの会」の開催

開催趣旨： 重い病気を患うきょうだいをもつ子どもたちは、家族の配慮にもかかわらず、孤独感や不安を抱きやすいことが知られている。このような境遇にある子どもたちが大人のスタッフ・学生ボランティアと一緒にゲームをしたり、豊かな自然に触れたりすることで、ストレスを発散し孤独感や不安感を癒すことが出来る心の居場所となるような場を提供する。

開催回数：4回

参加者数：延べ28人（9家族の子ども）

概 要：各開催概要は次のとおり

第1回きょうだいの会

開催日時：2017年7月29日（土）

開催場所：仙台市天文台、木の家ロッジ村

参加者数：子ども6名 ジュニアボランティア2名

学生ボランティア1名 一般ボランティア2名 スタッフ4名

概 要：マイクロバスを借りて秋保方面へ向かい、仙台市天文台と木の家ロッジ村の二カ所で活動を実施した。

はじめに仙台市天文台へ行き、プラネタリウム『今夜の星空散歩』を鑑賞した。今夜見える星空の説明を聞きながら鑑賞し「きれいだった！」「知ってる星座があったよ！」などと話してくれた。「途中でウトウトしちゃった」という子どももいたが、満点の星空を堪能できた様子だった。

次にバスで木の家ロッジ村へ移動しロッジを借りてバーベキュー&焼きそば作りをして楽しんだ。スタッフが準備した食材を使い、子ども達で役割分担し準備を進めた。ボランティアに教えてもらいながら「トマトの肉巻き」を作ったり、女子が切ったキャベツを使って男子が大きな鉄板で焼きそば作りに挑戦したりした。子ども達からリクエストがあったホタテやベーコン、肉や野菜を焼きおしゃべりをしながら楽しく食べた。当日はあいにくの雨だったため川遊びをすることが叶わなかったが、ロッジのなかでジャンボジエンガをしたり、ジエンガを使ってドミノを作ったりし、成功すると中学生も小学生もみんな拍手と歓声をあげ賑やかに過ごした。ロッジ村を出た後、小屋館跡庭園を散策し池の鯉にエサをあげたり足湯に浸かったりして楽しんだ。久しぶりに参加してくれた子どもはスタッフや他のメンバーとの再会を喜び、初めて参加した子どももすぐにメンバーと仲良くなり笑顔で過ごしていた。

第2回きょうだいの会

開催日時：2017年9月23日（土・祝）

開催場所：八木山ベニールランド

参加者数：子ども5名 ジュニアボランティア1名

学生ボランティア1名 一般ボランティア2名、スタッフ4名
概要： 地下鉄を利用して八木山ベニールランドへ出かけ一日中園内で楽しむ企画を実施した。

自分のお気に入りの乗り物を見つけて何度も連続で乗ったり、次々にいろいろな乗り物に挑戦したりと午前中から思いきり楽しんだ。「乗り物が苦手」と言っていた子もいたがスタッフが同行し園内を散策したりゴーカートに挑戦したりすると、他の子どももつられて参加し一緒に楽しむことができた。昼食の時間には「お腹すいた！」と戻って来て、ハンバーグのお弁当をもりもりと頬張っていた。午後になると希望する子はミステリーハウスへ入場したり、再びアトラクションを目指して走って行ったりと思い思いに過ごした。急降下、急上昇、上下左右に旋回する様々な乗り物に乗り、叫び声と笑い声が入り混じった賑やかな声が一日中聞こえていた。夕方には「疲れた」と言う子どももいたが、メンバーやボランティアとまだまだ楽しみたいという気持ちが伝わってきた。

保護者の方からは「ベニールランドに連れて行って欲しいと何度も頼まれていたが、病児のきょうだいがいるので一緒に連れて行くことが出来なかった。(メンバー自身) 今回の企画を楽しみにしていて一週間毎日天気予報を見て晴れるように祈っていた」という話があった。

第3回きょうだいの会（スペシャル）

開催日時：2018年1月20日（土）

開催場所：日立システムズホール仙台（青年文化センター）

参加者数：子ども5名（うち病児2名） 学生ボランティア1名
ボランティア2名 スタッフ5名

概要： 日立システムズホール仙台の会議室を借りてワークショップとマジックショー&レッスンの二つの企画を実施した。今回はスペシャルきょうだいの会として、病気の兄弟・姉妹も参加可能とした。一つ目の活動は『みんなで作家になろう』というワークショップ。このワークショップは数年前にも実施したが、参加するメンバーも変わったため現在のメンバーにも体験してもらいたいと思い企画した。きょうだいの子どもたちは一般的に「自分自身のストーリー」を描くことが苦手と言われているため、「一人ひとりが物語を作りそれを数人で持ち寄り大きな物語を作る」という活動を通し、自分の物語が共有され尊重されることを体験した。各自で「起・承・転・結」のある物語を作り、仲間に発表し、全員の物語をつなげたり組み合わせたりして大きな一つの物語を作った。子どもたちは全員で意見を出し合い、ボランティアと協力して物語を完成させた。このワークショップは低学年の子どもたちには少し難しいようにも思われたが、実際に出来上がった物語や子どもたちの表情を見ていると、大人には真似できない発想の柔軟さやおおらかさ、自分や仲間の物語を心から楽しむ好奇心や純粋さなど、子どもたちの持つ力が存分に引き出される活動であった。

みんなでお弁当を食べた後は二つ目の企画、プロのマジシャンによる『スペシャルマジックショー&マジックレッスン』を行った。和やかな会話と共に目の前で繰り広げられるテーブルマジックに子ども達は目を丸くして「えー!」「なんでなんで?」と大きな声を出して驚いていた。ショーのあとにはプロのマジシャンが使っているトランプをプレゼントしても

らい、それを使ったマジックを一つ教えてもらった。子ども達は手が小さいので大変そうだったが、帰ってから家族に見せたいと一生懸命練習していた。その後、台原森林公園で長縄やアスレチックで体を動かして遊んだ。体を動かした後は室内に戻り、おやつを食べながら1日を振り返って最後まで賑やかに楽しく過ごした。

第4回きょうだいの会

開催日時：2018年3月24日（土）

開催場所：松島（遊覧船、円通院、洗心庵、みちのく伊達政宗歴史館）
石巻（こばやし農園）

参加者数：子ども7名 ジュニアボランティア2名
学生ボランティア2名 一般ボランティア3名
スタッフ5名

概要：今年度2回目となる『おでかけ企画』はマイクロバスを利用し松島・石巻方面へのお出かけ企画を実施した。

松島に到着し、貸切の遊覧船に乗り松島湾を一周した。乗り物酔いが心配な子どもや震災時に津波被害を経験した子どもには無理に乗船させないこととしていたが、「みんなと一緒に乗りたい！」と言い全員で乗り、デッキに出て風や水しぶきをあびたり、「あの島は〇〇の形に似ているね！」などと会話をしたりして遊覧船を楽しんだ。その後、五大堂やみちのく伊達政宗歴史館などを見学した。洗心庵で昼食をとった後、円通院で数珠プレスレット作りを体験した。自分で好きな色のガラス玉を選び世界にひとつしかないオリジナルプレスレットが完成し「全色使ったんだよ！」「わたしは好きな色をたくさん使ったの！」などと嬉しそうに見せてくれた。

再びバスに乗り、石巻のこばやし農園でイチゴ狩りを体験した。スタッフの方から採って良いイチゴの見分け方を教えてもらい、それぞれ自由に採って食べてみると「甘い！」「美味しい！」と嬉しそうな声があがっていた。いちごの大きさ比べをしたり食べた個数を言い合ったりしながら、完熟のいちごをととても美味しそうに食べていた。農園の方の計らいでお土産用に1パック持ち帰っても良いとのこと、家族のために丁寧にパックに詰めていた。「こっちにもあるよ！」「スタッフの分も詰めてあげるよ！」と互いに思いやりをもってイチゴ狩りを楽しんでいるのが見て取れた。この日はバスのトラブルがあったため、帰りの交通手段が電車に変わり解散時間が遅れるなど急な変更があったが、保護者の方々の理解が得られ全員無事にお返しすることができた。また、トラブルがあったものの子ども達は「また来たい！」と言ってくれた。

●きょうだいの会OB・OG交流会の開催

開催日時：2017年10月28日（土）

開催場所：BISTRO SPUNTO

参加者数：中学生以上のきょうだい6名 学生ボランティアOB・OG6名
一般ボランティア1名 スタッフ6名

開催趣旨：これまできょうだいの会に参加した中学生以上のメンバーと学生・一般ボランティアとして参加した方々、これまでのスタッフを招待し、10年間の活動を振り返る交流の場とする。

概要：きょうだいの会のメンバーは中学生になると部活動や試験勉強などで活動に参加できなくなるため、以前から「中学生以上でも参加できる企画をして

ほしい」という要望があった。また、きょうだいの会が今年で10周年を迎える節目の年でもあったため今年度の新規事業として開催した。参加したボランティアは、当時小学生だった子ども達がすっかり大きくなっている姿を見て、歓声をあげて再会を喜んでいた。初回からの活動の写真をまとめたスライドショーを見ながら思い出話をして懐かしんでいる様子だった。大学生や社会人になり県外にいる方々からは「残念ながら参加できませんが、みなさんに会いたいののでまた開催して欲しい」といった返事が返ってきた。

また、この同窓会を機に、きょうだいの会のボランティアとして再び参加してくれる方も現れた。

●ボランティア感謝会の開催

開催日時：2018年2月25日（日）

開催場所：BISTRO SPUNTO

参加者数：22名

開催趣旨：ワンポケの役員やスタッフが、各活動に携わったボランティアや協力団体、病院関係者などを招待し感謝を伝えるとともに、活動報告や情報交換の場とする。

概要：当法人の役員や運営委員が、この一年間にお世話になったボランティアや協力企業の方々、病院関係者の皆様などをお招きして食事をしながら交流し、日ごろの感謝を伝えた。各活動を紹介するスライドショー上映やじゃんけん大会も行い、和やかな雰囲気の中で、ワンポケの活動への思いを話し合った。

- 被災地における心や体のケアが必要となる子どもたちや、その周囲の支援者への支援
被災地における心や体のケアが必要となる子どもたちや、その周囲の支援者への支援は、2017年度は実施しなかった。

3. ボランティアを育成するための研修プログラムの提供事業（事業費 6,260円）

●ボランティア・スキルアップ講習会の開催

開催日時：2017年12月2日（土）

開催場所：宮城県立こども病院 愛子ホール

開催趣旨：病院の小児病棟などで活動をしているボランティアの方々やこれから病院ボランティア活動を志す方々、保育士や学校教育に携わる方々など幅広く子どもに寄り添う人々を対象に、子どもを取り巻く社会環境の問題点を抽出し、共通理解を深める。ボランティアの質の向上、モチベーションの維持を目指し、活動意義や活動内容に伴う知識を習得する。また、ワンダーポケットの活動を一般の方たちに理解していただく場所として企画・開催し、ワンダーポケットの活動のための組織強化を図ると共に、ボランティア同士の情報交換の場とする。

講義内容：『こども病院の9年を振り返って～ボランティア活動を中心に～』

講師：地方独立行政法人宮城県立こども病院理事長 林 富 先生

受講者数：約51名

概要：今年度も宮城県立こども病院との共催でボランティア・スキルアップ講習会を開催した。当法人の副理事長でもある林先生を講師として、こども病院の開院前の熱心な議論の様子や、「成育医療を実践し子ども達のQOLを向上する」という意味をこめて「すべてのこどもにいのちの輝きを」という基本理念が作られ、その実践のために必要だった成育支援局の設置やボランティアコーディネーターを中心としたボ

ランティア活動が始まったお話や、それに伴い当法人の設立や理念が作られたことについて写真や動画を交えてお話しいただいた。受講者アンケートには「こども達への思いが伝わり心があたたまった。」「15年前からたくさんのボランティアがいて、さらにそれをもっと前からリードしている方々の存在を知り感激した。」「今日に至るまでのご苦労が分かった。今後も心を込めてボランティア活動を続けていきたい。」「私の知らない時代、皆様の熱意と努力の一端が知れたことはとても幸せなこと。」など、アンケートを提出したすべての方から感想を書いていただき、充実感を味わうことが出来たようだった。

●ワンダーポケット「きょうだいの会」勉強会

ワンダーポケット「きょうだいの会」勉強会は、企画したが学生ボランティアの減少により参加者がなく2017年度は実施できなかった。

●ワンダーポケットの活動を通じたボランティアの育成・支援

活動事業：総会、ボランティア講習会、クリスマスイベントなど

従事者数：延 110人

概要：ワンダーポケットが主催したイベントの際には、宮城大学の学生をはじめ一般のボランティア希望者へ、メールやブログ、フェイスブック等を通して呼びかけを行い、ボランティア活動の場を提供した。各イベント後には成果や反省点等を共有する機会を持ち、継続的なボランティアの育成を図った。

4. この法人の活動に関する一般社会の理解をより深めるための広報、啓発事業

(事業費 0円)

●ホームページ、ブログ「ラッコのしっぽ」、フェイスブックの継続

ホームページやブログをイベント開催前や終了時を中心に随時更新するとともに、ワンダーポケットのフェイスブックも併用し、外部への情報公開や会員・支援団体への活動状況報告、ならびに各イベントやボランティア作業への参加呼びかけのツールとして活用した。

●ワンダーポケット通信の発行

発行回数：2回

発行部数：各150部

概要：ワンダーポケットの活動状況を、会員やこれまで様々な形で活動を支援してくださっている方々に知らせていくため、ワンダーポケット通信 Vol.31 および Vol.32 を発行した。Vol.31 では 2016年度後半の活動報告を行い、Vol.32 は 2017年度前半の活動を報告する内容となっている。

●法人紹介リーフレットおよびラッコハウス案内リーフレットを改訂

実施出来なかったため、来年度実施することとする。

●『ボランティア・スキルアップ講習会』の会場において書籍の展示・販売を行う

病気の子どもに関する書籍の展示・販売は、2017年度は実施しなかった。

●JHHH ネットワーク会議への参加

JHHH ネットワーク会議への参加は、2017年度は参加しなかった。

5. その目的を達成するために必要な事業 (事業費 0円)

●『ワンダーポケット』の組織強化活動

(1) 新規会員募集活動の実施

ボランティア・スキルアップ講習会や座談会の開催の場を活用して新規会員を募ったほか、役員や運営委員からも周囲へ会員募集の声かけを行った。その結果2名が新たに会員となった。

(2) 現在の会員数の状況

2017年度3月末時点の全会員数は87名で、その内訳は一般会員70名、学生会員1名、賛助会員16名(うち団体5)となっている。また会費の未納者は13名で未納額は39,000円である。

なお、2017年度は6名が退会した。

●会議の開催

(1) 理事会の開催

①開催日時；2017年5月24日(水)

開催場所；仙台かき徳

議 題；総会に付議すべき事項について

(2) 総会の開催

開催日時；2017年6月11日(日)

開催場所；みやぎNPOプラザ 第一会議室

議 題；2016年度事業報告及び決算報告
2017年度事業計画案及び予算案

●事務局の運営等

(1) 事務局員(2名)

(2) 運営委員会の開催 計5回

(3) 実行委員会の開催 計5回

【その他の事業】

その他の事業(物品の販売事業及びチャリティー事業)は、2017年度は実施しなかった。